

磐田市 桶ヶ谷沼 ビジターセンター

第184号 2019年9月15日 だより



開館時間：午前9時～午後5時（月曜日 休館）
住所：〒438-0016 磐田市岩井315番地
電話：0538-39-3022 FAX：0538-39-3023
E-mail：okegaya-vc@city.iwata.lg.jp



* 鳴く虫を楽しむ *

「春はあけぼの」で始まる枕草子（まくらのそうし）には

「虫は鈴虫。ひぐらし。蝶。松虫。きりぎりす(今のコオロギ)・・・」と虫の話も登場します。日本人は千年の昔から鳴く虫の声を聞き分けて、それぞれの虫の声を楽しんでいたようです。

江戸・神田のおでん屋「忠蔵さん」が鳴く虫を育てた最初の人？

江戸時代には、庶民の間にも鳴く虫の声を楽しむ文化が広がり「虫売り」を職業にする人がいて、竹細工の虫かごも売られていました。寛政の時代、江戸の神田でおでん屋を営む忠蔵という人は、本業の片手間に捕まえたスズムシを売っていましたが、大変売れ行きが良く「虫売り」へと転業したのが虫売りの始まりとされています。

忠蔵さんは、瓶(かめ)に入れた土に産ませた卵を室内で温めてふ化させ、野生のスズムシよりも早く成虫に育てて高値で売り出すという養殖の技術まで開発したそうです。・・・おどろきですね！

当時の「虫売り」はスズムシ、クツワムシ、マツムシ、カンタン、キリギリスなどの鳴く虫のほか、季節によってホタルやタマムシ、ヒグラシ(セミ)なども売っていたようです。【参考：フリー百科事典】

時にはテレビを消して、鳴く虫の声に静かに耳をすませてみてはいかがでしょうか。



虫売り(精通版 日本国語大辞典)



大名家で用いた虫かごは、うるしぬりにまき絵をほどこした豪華なものでした。

(駿河竹工芸・然林房製作)

* 桶ヶ谷沼スケッチ *



現在、沼のとなりの畑一面にソバの白い花が咲いています



リスアカネ

沼の周りでは、アカトンボの仲間が見られるようになりました

* 万葉集に詠まれた植物 その6 *



秋の野に 咲きたる花を ^{および}指折り かき数ふれば 七種^{くさ}の花

(巻八-1537)

萩^{はぎ}の花 尾花^{おぼなくずはな}葛花^{なでしこ} なでしこが花 をみなへし また藤袴^{ふじばかま} 朝顔^{あさご}が花

(巻八-1538)

2首とも山上憶良^{やまのうえのおくら}が詠んだ歌で、秋に咲く植物のうち代表的な7種をあげています。秋の七草はこの憶良の歌以来、現在まで変わっていません。この歌の「尾花」はススキ、「なでしこ」はカワラナデシコ、「をみなへし」はオミナエシ、「朝顔」はキキョウのことです。ハギはマメ科の植物で日当たりの良い山野などに生えます。万葉集に萩が詠まれていたころは白い花はまだ知られておらず、萩の花といえば紅紫色だったようです。

【参考:万葉植物事典(北隆館)】

* 8月のイベント報告 *

いろいろな工作教室 8月4日(日)

タカサゴユリでキツネを作ったり、ボール紙でホイッスルを作って鳴らしたりしました。牛乳パックで作ったコマには各自が好きな色をぬって、回した時の色のちがいを楽しみました。

(講師:大橋美枝子さん)



家庭菜園の害虫とスズメバチのお話 8月11日(日)

スズメバチは働きバチが協力して大きな巣を作ります。働きバチはすべてメスで9~11月は活発に活動し、こうげき性が強くなるので、刺されないためにはハチをおどろかせたり、巣やエサ場に近づいたりしないように気をつけましょう。(講師:池田二三高さん)

自然とのふれ合いを

アカトンボ観察会

10月20日(日) 9:30~11:30 (受付 9:00~)

アカトンボの区別の仕方を教わった後、沼でアキアカネなどを観察します。

キノコを楽しむ会

11月10日(土) 9:30~11:30 (受付 9:00~)

キノコの説明を受けたあと、桶ヶ谷沼周辺でキノコの観察をします。

※どちらの行事も桶ヶ谷沼ビジターセンター集合です。

野外活動ができる服装でご参加ください。

※どなたでも参加でき、参加費は無料です。申し込みは直接または電話、FAXでビジターセンターへどうぞ